

第1章

はじめに

1. 藤沢市交通マスタープラン策定の背景と目的
2. 藤沢市交通マスタープランの役割と位置付け
3. 交通マスタープランの構成



第1章 はじめに

1 藤沢市交通マスタープラン策定の背景と目的

1-1 交通マスタープラン策定の背景

藤沢市は、昭和30年代初頭より、「住みやすく、働きやすい自立した都市」をめざしてまちづくりに取り組んできました。その結果、恵まれた鉄道網を活かしつつ、その鉄道駅を中心に都市拠点の形成を図りながら、利便性の高いコンパクトな都市構造を有する40万人超の都市へと成長してきました。

21世紀に入り、人口減少・少子高齢社会など社会状況の急速な変化に伴い、交通に対するニーズの多様化が進むとともに、地球環境問題への対応も重要視され、低炭素型の都市構造（集約型都市構造）の充実や過度に自家用自動車に依存しない、だれもが歩きやすい環境づくりを優先にしながら自転車、公共交通などの多様な交通手段を快適に利用できる交通環境づくりが求められています。

このようなことから、将来のあるべき交通像を明らかにした上で、今後とも持続可能な総合交通体系を構築していく必要があるため、その指針となる「藤沢市交通マスタープラン」を策定します。

1-2 交通マスタープラン策定の目的

藤沢市では、少子高齢化、人口減少社会を迎える中、採算性が厳しくなりつつあるバスなどの地域交通の維持・確保を図りながら、充実へとつなげていくことが求められています。

また、環境にやさしい交通手段への転換を促すほか、市民活動・産業活動の交流・連携を支える広域交通網などの整備を進めつつ、都市活力を持続していく必要があります。

このような交通を取り巻く状況に対応するため、以下の2点を目的に、「藤沢市交通マスタープラン」を策定します。

①市民、交通事業者、行政などとの協働により、総合交通体系の基本的な方針を定める。

持続性のある地域交通を構築していくためには、市民、交通事業者、行政などが藤沢市の交通像を共有し、連携を図りながら、様々な交通施策に取り組んでいくことが重要になります。

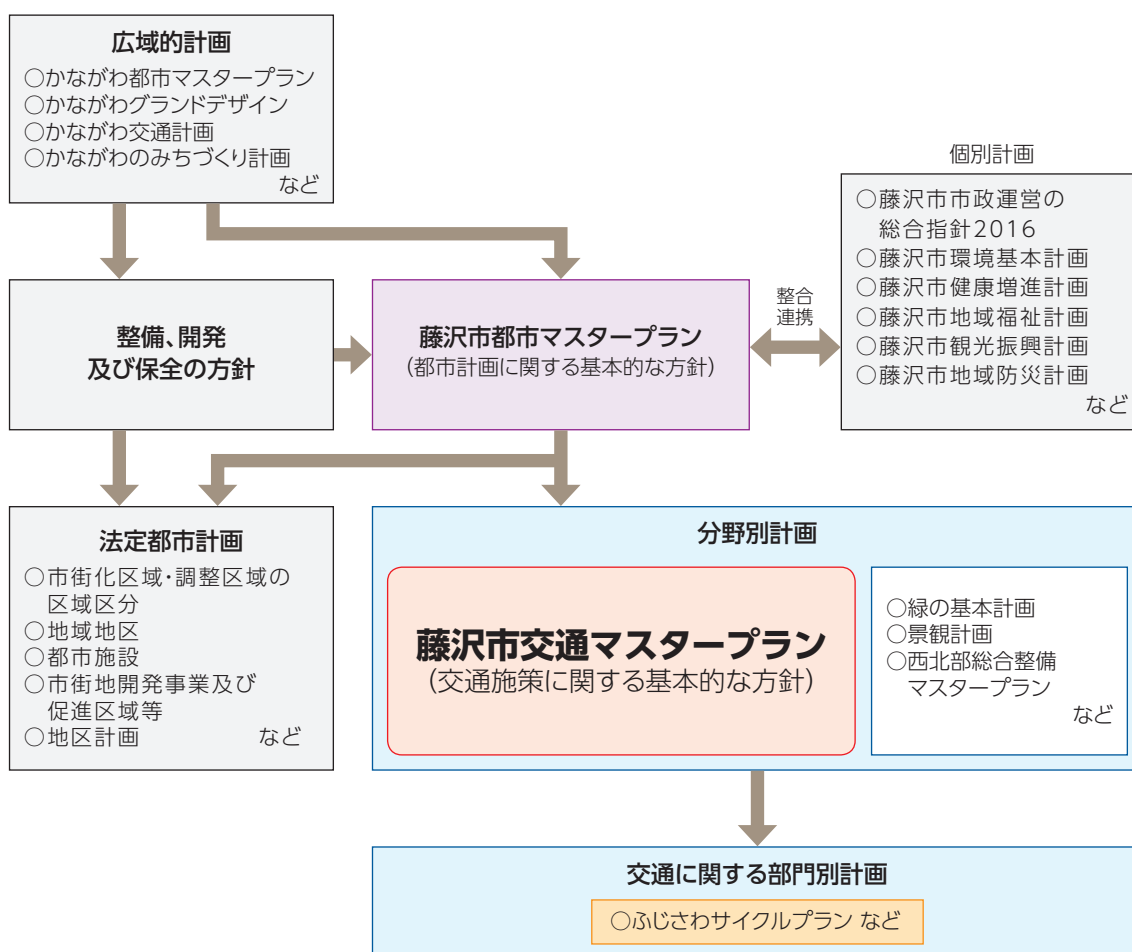
このような観点のもと、藤沢市では、市民、交通事業者、行政などの協働により、藤沢市の総合交通体系の基本的な方針を定めます。

②地域交通をマネジメントする。

持続可能な総合交通体系を構築していくためには、地域交通をマネジメントしていくという観点が不可欠になると考えています。このような観点を踏まえ、総合交通体系を実現していくため、地域交通をマネジメントしていく方向性を定める必要があります。

2 藤沢市交通マスタープランの役割と位置付け

- (1) 交通マスタープランは、「藤沢市都市マスタープラン」の交通に関する分野別計画として、2030年（平成42年）を見据えた中長期的な総合交通体系の方向性を示しています。
- (2) 交通マスタープランは、市民、交通事業者、行政などが連携を図りながら、交通施策を展開していく上で、基本的な指針となるものです。
- (3) 交通マスタープランは、「かながわ都市マスタープラン」、「かながわ交通計画」など広域的計画、近隣都市との交通に関する計画などと連携・整合性を図りながら、交通施策を展開していきます。
- (4) 交通マスタープランは、環境・福祉・産業部門などの個別計画と整合、連携を図りながら、交通施策を展開していきます。



■ 藤沢市交通マスタープランの位置付け



3 交通マスタープランの構成

藤沢市交通マスタープランは、以下の構成とします。

